

橋場 倅男議員

美里町の介護施設の状況について

答 適正な是正指導を行います(町長)

問 ①現在、何カ所施設があるのか伺います。

②町・県の監査はどのように行っているのか伺います。

③町内各施設での労働環境について伺います。

町長

①町内の介護施設は居宅介護施設事業所3カ所、デイサービスセンター8カ所ほか計22施設です。このほか高齢者関係施設として有料老人ホーム2カ所、サービスつき高齢者向け住宅が3カ所あり、合計で27施設あります。

②監査は介護保険法に基づき行っています。まず実地指導において人員配置及び設備基準を満たしているか、適正

なサービス及び分かりやすい施設運営が行われているか確認し、著しい基準違反があった場合に監査を実施します。27年度は、県が特養1カ所、デイサービス2カ所、ヘルパーステーション1カ所の4カ所に実地指導を行い、特に問題はないと報告を受けています。町ではグループホーム4カ所の実地指導を行い、特に問題がない状況です。

③労働環境については、実地指導時に勤務表等を確認しています。今後も県等関係機関と連携を図りながら適正な指導を実施してまいります。

白石地区にある社会福祉法人に対する是正の進捗について

問

町道の払い下げを進めるに当たっては、是正の履行を確認後に事務を進めることとする旨の説明を受けています。付帯決議の各項目ごとに改善状況を伺います。

特に、新たな問題が発生しないよう誠意を持って解決に向けて対応することになっていくことについて、新たな違反や問題が発生していないのか、あわせて伺います。

町長

現在、町では付帯決議に記された事項の履行を見守っている状況です。確認ができるまで、町道払い下げの契約は行わない予定です。定期的にパトロールするとともに、住民からの通報に対しては、速やかに現場確認を行い、行為者に対して指導を行っています。

今後も、新たな違反行為の未然防止に向けて取り組むこととともに、違反行為を行った行為者に対しては、適正な是正指導を行っていきます。



幸せを求め、夢と希望の持てるまちづくり

ミムリンのつぶやき

美里MSミムリン

根本 孝代議員

企業立地アンケート調査結果について

答 町内外12企業が検討(町長)

問 美里町では、産業経済の振興と雇用の場の拡大を図るため、町内に立地する企業を対象とした各種優遇制度を設けています。

また、寄居ICから県道本庄寄居線に向かうアクセス道路整備事業を現在実施しています。そのアクセス道路に面して、県企業局による産業団地の予定地があります。

そのような中、町では町内外の企業に対し、企業立地アンケート調査表を約500社に配布し、新たな施設等の立地希望がある場合の参考資料になるよう、企業立地アンケート調査を実施しました。そこで、美里町を、工場等施

設の進出先候補地のひとつと考える企業はありましたか。県企業局による工業団地ですが、美里町として協力できることを考えていますか。

町長

寄居IC西側に企業が立地する意向があるかを把握するため、平成27年1月に町外473社、町内10社を対象にアンケート調査を行いました。

その結果、食料品製造業や輸送用機械製造業などの町内企業を含む12社の企業から新たな立地検討をしていると回答を得ました。これらの企業や、このほかに立地を検討している企業に、町内へ立地してもらえよう随時計画の進捗

状況や当町の優遇制度を紹介しているところです。

引き続き、地権者と県企業局との仲介役として事業化に向けた合意形成に当たり、産業団地の整備と企業誘致の実現に向け、全力で取り組みます。

若者らが集える場所等の設置について

問

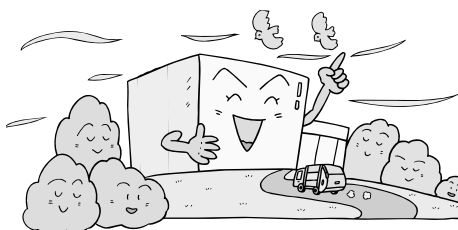
町では、生涯学習や多世代交流、健康づくり・子育て支援など重点的に事業の展開を行い、町民の生活向上に貢献しています。若者らが集える施設や場

所等があまりないように思います。

そこで、町にも多種多様なニーズに対応できる部屋等を設け、町の活性化に寄与できればと思いますが、町長はどのようにお考えか伺います。

町長

町では、コミュニケーションセンターや地区公民館、図書館等が地域の方々の交流の場としての役割を担っていると考えています。まずは、既存施設の有効活用を図ります。



産業団地は平成30年の分譲を目指し、15ヘクタール程度をスマートICアクセス道沿線に造成予定です。

ミムリンのつぶやき

美里MSミムリン

問

町の人口減少・少子化の現状と対策について

櫻沢 保議員

答 住み続けたい町・移り住みたい町づくりを実施(町長)

問 埼玉県の人口は、726万人で5年前と比較すると6万7000人ほど増加。

また、市町村別に見ると、23の市町で増加し、40の市町村で減少。一方、美里町の人口は、残念ながら減少し県内63市町村の内、下から5番目と少ない現状。最近では、毎年100人以上の人口減少が続いており、将来的には1万人を割り8000人に減少すると予測されています。



町長は、町の人口が減少している要因・原因はどこにあるとお考えか。また、人口減少・少子化に対する対策として、どのような対策をお考えか。

町長

人口減少の要因等は、若者が町外で就職し、また、男性の未婚率も高く、出生率も低調なことと考えるが、人口1万人を維持することが持続可能な行政体として望ましいと考え、美里に住み続けたい、美里に移り住みたいと思えるような町づくりを実施します。

近隣市町との合併について

問 本庄市の人口は約8万人、深谷市の人口は約14万人であること等から、各種の行政サービスが低下する中、i)人口1万人ほ

どの美里町は、近隣市町と合併し、行政効率を図るべきではないか、ii)合併すれば町長・副町長・教育長も廃止され、また、議員の数も人口に比例すると2〜3人になると、iii)合併しても美里町の名前がなくなるわけでもなく、「本庄市美里町字〇〇」になるだけ、等々として、合併を希望する者もいます。

町長

①住民アンケートでは、合併に否定的な評価がなされているが、簡素で効率的な行政を目指す取り組みを不断に続けていく。また、②合併を検討する財政や人口規模は、政府の方針・特に地方交付税の交付状況に大きく左右されるが、現在は立ち行かない状況にはなく、持続可能な町を目指して努力していきます。



問

学習支援事業開設について

田端 恵美子議員

答 (仮称)ミムリン学習塾を実施(教育長)

問 熊谷市では、昨年度から学習支援充実くまなびスクール事業を始めました。この事業を行う経緯は、学習意欲があり、進学の希望があるにもかかわらず、家庭の事情等から塾などに行けない生徒に対して学習の機会を保障するためのものです。

美里中学校においても地方創生の観点から、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導により、基礎的・基本的な学力の確実な定着を目的とし、中学生の学力の底上げができないものでしょうか。美里の未来を担う子どもたちのために、ぜひ学習支援事業開設について見解を伺い

ます。

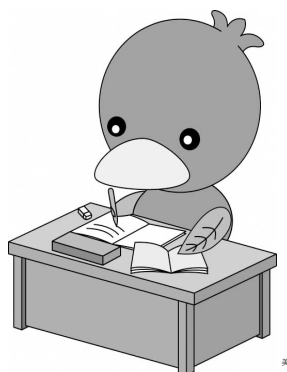
教育長

美里中学校では、埼玉県教育委員会委嘱事業の地域にに応じた学



学習する生徒たち(県内の中学校)

力向上推進事業に取り組む中で、家庭学習が定着するように家庭学習ノートや自主問題集を作成し、家庭学習へ取り組む時間がふえるようにしてきました。また、参加を希望する中学校3年生を対象として学習会を放課後に実施し、学習機会の確保に努めてきました。その結果、一昨年度・昨年度、そして今年度と全ての生徒が高校等に進学できました。さらに、教育委員会としても、平成28年度より美里町内に在住する家庭の事情等で学習塾に通っていない中学校3年生の参加希望者を対象に、(仮称)ミムリン学習塾



美里MSミムリン

を実施することを計画しています。この事業を通して、学習意欲が向上し、学習したことが家庭学習へ継続することで、進学に向け、明るい希望が持てるようにしていければと考えています。今後実施の時期や参加の要件についても、検討していきたいと思えます。事業実施については、指導者の確保等さまざまな課題



が考えられますが、生徒の学習機会を保障することも、未来に向けて、夢や希望を持った取り組みができるよう今後も努めていきます。

美里中学校は、昭和41年4月に学校統合により発足し、今年で創立50周年を迎えました。



議会でのおもしろいやり取りもネットで見られるよ(美里町ホームページ・議会)



自転車の安全利用について

原田 敏夫 議員

答 安全かつ快適な環境整備に努める(町長)

問 平成26年度の自転車事故は、全国で12万件以上と報道されており、交通事故総数の約2割を占めています。

町長 各小学校では、児童により、3年生から6年生が玉警察署等の協力 実施しています。実技講習は、

当町での自転車事故を減少させる施策について伺います。

町長 美里町自転車の安全な利用に関する条例を3月議会に上程し、自転車に関係する交通事故の防止と自転車を安全かつ快適に利用できる環境の整備に努めます。

問 小中学校では、自転車の安全教育及び研修はどのように行っているのか伺います。



自転車に乗って発車時の安全確認から信号機のある交差点の曲がり方、踏切の渡り方など、モデルコースを利用して学習しています。中学校では、全校集会等で交通安全指導を行っています。生徒が自転車を運転しているところを動画撮影し、乗り方や交通ルールの問題点について発表することもあります。

問 児童生徒が自転車事故を起こしたときは、保護者が賠償責任を負うこととなります。自転車事故には公的救済措置はなく、民間の保険会社での対応となります。

町長 児童生徒の自転車保険を県内でも行政が一括加入している町もあります。また、自転車用ヘルメットについて、町の補助対象になるのかお聞きします。

町長 (独)日本スポーツ振興センターの災害共済給付に全児童生徒が加入しており、登下校時の通学路での事故についても保険の対象となります。また、当



町では交通災害共済の加入を推進しています。小中学生を問わず、広報等を通じて自転車保険等の個人賠償保険への加入を推奨していきます。児童が自転車に乗る場合、自転車用ヘルメットの着用を指導していますが、登下校用のヘルメットでの対応も可能です。登下校用のヘルメットは補助事業として扱います。

町長として見据える町の未来とは

大島 輝雄 議員

答 将来にわたって経済・社会・環境が持続可能な町にしたい(町長)

問 寄居P.AスマートIC事業の進捗と今後のまちづくりのために、この事業をどのように活かしていくのでしょうか、伺います。

町長 寄居P.AスマートIC事業の進捗と今後のまちづくりのために、この事業をどのように活かしていくのでしょうか、伺います。

町長 寄居P.AスマートICの全面

供用開始までに、アクセス道路については部分的に供用開始を行うことも考えられます。道路以外への有効活用計画は、現在のところ考えていません。

問 まちづくりに対する町長の公約は何ですか。

町長 全ての町民が健康で幸せに生活していただくことが、まず願いです。そのためには、美里町が世代を超えて、経済・人・環境が持続可能でなければなりません。地域で人・物・お金が循環し、景気が維持されること、健康が大切であると考えています。

問 職員との意思疎通または、ストレスケアについてお聞きします。

町長 職員との意見交換の場としては、毎年新人職員から各階層の職員別に意見交換を実施し、私の考え方や職員の意見を伺う機会を設けています。

問 役場組織再編について。

町長 美里町が衰退していくか、生き残りをはけた新たな挑戦を続けるかの選択だと思っています。

今までもおりで必要な施策が遂行できるのなら、機構改革する必要はないのですが、このままでは「やらなければならぬこと、やりたいこと」に、なかなか手が出せないという状況にあると思っています。

まずは機構改革でマネージャーよりもプレーヤーをふやすこと、ムリ・ムラ・ムダをなくして、役場全体の事務を平準化するということも本腰を入れて進めていくしかありません。



全国で開通しているスマートICは、平成27年12月末時点で80カ所もあるんだって♪



平成27年の美里町の人口1,000人当たりの人身事故発生件数は69件で県内ワースト2位です。気をつけてね。

